

創業98年アイビックグループ

顧客満足、

現場主義の徹底で

100周年へ

「アイビック」「アイビック食品」「アイビーエム不動産」「総菜開発」などを展開するアイビックグループ（本社・札幌市、牧野利春代表）が株主総会・方針発表会を開催した。万全のコロナ対策下で、全社一体の力強い姿勢を見せた。

3密回避のアウトドアブームで業績好調



1922（大正11）年に創業したアイビックグループ。2年後の創業100周年を見据え、グループが一体となってコア事業の確立と経営基盤強化を進めている。現在は、釣具・アウト



貢献が認められた社員の「貢献賞」表彰もおこなわれた



牧野利春グループ代表

「2020年度株主総会・決算報告会」 2021年度方針発表会」

「総菜開発」の4社を中心に事業を拡大中だ。同グループでは透明性の高い経営の一環として全社員参加の株主総会・決算報告会並びに次年度の方針発表会を毎年開催しており、今年も1月16日、札幌市内の「デ・アウネ さつぽろ」で実施した。当日は、新型コロナウイルス対策のため会場参加を約20人限定、リモートでグループ社員244人のほか三菱UFJ銀行、七十七銀行、北門

100周年で掲げた数値目標も射程圏に

ビックに3億円、アイビック食品は新事業向けに3億5000万円を投資する。難しい時代と言われているが、なすべきことは簡単、お客様を満足させることに尽きる。そのためにも経営陣はじめ全社員が現場を知ること。新たな年も創業100周年に向け緊張感を持って臨んでほしい。挑戦の



大木孝志北海道銀行副頭取(写真上)と長野実北洋銀行副頭取(写真下)が総評をおこなった

「2020年度決算報告会並びに方針発表会」

ター内の売り場増設など、販売を強化する」と意欲的だ。



「2020年度決算報告会並びに方針発表会」

一方、アイビック食品は、コロナの影響で目標値を下回ったものの、近年は本社工場の拡充などの先行投資に加えM&Aを推進。18年に子会社化した総菜開発も業績に寄与している。また、20年3月に寧波愛金宝食品

釣具とアウトドアを融合した新業態店の「コロン札幌（札幌市手稲区）がキャンペーンなどの需要を取り込んだ



次期も食品ラボの拡充などを新事業に3億5000万円を投資するアイビック食品の本社工場（札幌市東区）

ANサービス

との業務提携締結など海外進出も進む。こうした積極経営で経済産業省の「地域未来牽引企業」に認定されたのも大きなトピックだ。20年6月に就任した牧野克彦アイビック食品社長は「コロナ禍にあり、静の年」と位置づけて体制固めに注力した。感染対策に万全を期し、本社工場に陰陽圧管理システムや自動検温・アルコール噴霧器を導入。また外食応援活動や他社とのコラボ企画も展開した。次期はレシピ開発の情報発信などDX化も推進する」と次代を見据える。

「21年度のグループスローガンは「スピード感を持った行動とDX化推進を！」。目標を売上高96億に設定しており、100周年の売上高100億円到達が射程に入った。



グループ各社を担う経営陣。左から牧野良彦アイビック社長、今西輝アイビーエム不動産社長、牧野克彦アイビック食品社長